

令和3年度

財政援助団体監査の結果報告書

中津川市監査委員

中監査第38号
令和4年2月14日

中津川市長 青山節児様
中津川市議会議長 岡崎隆彦様

中津川市監査委員
今井 正義
吉村 浩平

令和3年度財政援助団体の監査結果について

令和3年度の財政援助団体の監査を地方自治法第199条第7項の規定により実施したので、その結果を同条第9項の規定により報告します。

目 次

1	監査の対象及び監査の期日	1
2	監査の方法	1
3	監査の結果	1

1 監査の対象及び監査の期日

当年度の財政援助団体監査は、令和2年度に市が補助金等の財政援助を行った団体のうちから抽出した次の団体について実施した。

(単位：円)

実施日	担当課	科目	補助金等の名称	団体名	金額
11月22日 (月)	定住推進課	補助金	中津川市路線バス運行継続緊急支援補助金	北恵那交通(株)	2,000,000
11月22日 (月)	定住推進課	補助金	中津川市自主運行バス特別対策費補助金	北恵那交通(株)	13,992,000

2 監査の方法

令和2年度における市補助金等の受入れ、現金出納等に関する事務、事業の執行及び事業目的について監査を行った。

監査にあたっては、対象団体から提出された補助金交付申請書、事業実績報告書、決算書、会計帳簿、その他関係書類について監査し、併せて団体責任者等及び担当課職員の説明を聴取すると共に、現地調査を行った。

3 監査の結果

監査結果は、次のとおりである。

I 北恵那交通株式会社

1 事業の概要

北恵那交通株式会社が運営する市内の路線バスは、近年の少子化の影響とマイカーの普及による利用者の減少が続き、現在はさらに新型コロナウイルス感染症拡大防止による外出自粛を受け、運行の継続が大変厳しい状況となっている。同社では、人件費の削減など経営改善を実施しているものの、路線バス事業を取り巻く環境は極めて厳しい状況である。

このため、市民の重要な交通手段である路線バスの運行維持及び市の策定した計画（加子母市民病院線）並びに要望（川上線、夕森線）された路線で市の自主運行バスを運行するため、北恵那交通株式会社に支援を行い、地域住民の交通の利便を確保するものである。

2 補助金の支出根拠

中津川市路線バス運行継続緊急支援補助金交付要綱
中津川市自主運行バス特別対策費補助金交付要綱

3 経理の状況

中津川市路線バス運行継続緊急支援補助金

【算出根拠】

$200,000 \text{円} \times 12 \text{系統（他の補助金の対象路線を除く運行する路線バスの系統数）} \div 2,000,000 \text{円（上限額）}$

中津川市自主運行バス特別対策費補助金

【加子母市民病院線】

○令和2年4月1日～令和3年3月31日

・ 歳入決算額 3,860,583 円

内訳	経常収益	1,407,213 円
	国補助金	437,000 円
	県補助金	255,300 円
	市補助金	1,761,000 円
	自己資金	70 円

・ 歳出決算額 3,860,583 円

【算出根拠】

$\text{キロ当たり計上経費}(240 \text{円}88 \text{銭}) \times \text{実車走行距離}(16,027.0 \text{Km})$

【川上線、夕森線】

○令和2年4月1日～令和3年3月31日

・ 歳入決算額 19,906,889 円

内訳	運送収入	7,200,286 円
	その他収入	475,554 円
	市補助金	12,231,000 円
	自己資金	49 円

・ 歳出決算額 19,906,889 円

【算出根拠】

$\text{キロ当たり計上経費}(257 \text{円}56 \text{銭}) \times \text{実車走行距離}(77,290.3 \text{Km})$

4 監査の結果

当会社の経理は適正に行われ、証拠書類等も適正に管理されているものと認められた。

路線バスについては、市民の高齢が進んでいくなかで重要な移動手段となっていくと予想され、今後も維持拡充していく必要があると考える。しかしそのためには、一定量の利用者数の確保と、一定の収益を上げていく必要がある。利用者数の増加を図るためには、市民ニーズの把握等を的確に把握していく必要があり、市の主管課と会社とが連携し官民一体の取り組みを継続・実施されたい。